

## 【 生 協 と 私 】

白石 幸久(北海道支部)

北海道生まれ、協同組合と言えば農協しか知らなかった私。大学入学で「生協」という組織のあることを知り、場所も仙台をスタートに、東京、札幌、千葉と辿った生協人生。定年から14年、後期高齢者突入直前の振り返りです。

### (1) 生協との出会いは、東北大学生協組織部 (1968年)

アルバイト代がないと生活できなかった学生時代。手当(当時7千円?)必須で東北大学生協組織部へ。消費者大会代表派遣のための募金要請を講義前のクラスで!人前で訴えることなど不慣れで恥ずかしかった!でも次第になれて「灯油代値上げ反対」のマイク宣伝を仙台東1番丁で!

### (2) 最初に給料を貰ったのは、東北大学生協購買部 (1972年)

卒業論文提出後(1月)、宮城県民生協1号店多賀城の薬局コーナーで白衣姿の販売助手を、2カ月ほど、この時はアルバイト代。正式な月給は東北大学生協購買部の職員として。

### (3) 大学生協連「生活問題研究所」では「生活と生協」編集の仕事を (1973年)

縁があり、東京の大学生協連へ。中野に建設された大学生生協会館5階に事務所。

### (4) (財)消費生活研究所(東京都認可)設立時は、都からの委託調査も実施

編集と集会での刊行物販売、各種研究会事務局の仕事の毎日。研究所が任意団体以外に都知事認可の財団を設立。早速、「家庭用品の品質表示に関する調査」(100万円?)を受託、実施。

### (5) 初の地域生協、お店で生鮮3部門(3カ月)の研修を経て、コープさっぽろ組織部へ (1978年)

コープさっぽろでは、組織部、教育部、地区本部などいくつもの部門を担当。

### (6) 日生協との共同元受「エルム共済」(道知事認可)の開発・発売

さっぽろでは、地域購買生協の新規事業、共済事業の立ち上げを担当。「エルム共済」の開発・認可取得・発売開始までを実施(現在はCOOP共済「たすけあい」に)。

### (7) コープさっぽろ倒産危機で、日生協共済事業センターへ (1996年)

さっぽろの倒産危機、リストラ時、日生協共済事業センター(千葉)へ単身出向、3年後に日生協へ移籍。共済金支払いや共済広報、保険代理業連絡会事務局の仕事を担当。

### (8) 「日本共済協会」出向時は、「保険法」審議委員の随行で法務省へ (2007年)

法制審議会「保険法部会」が法務省で24回開催、2008年通常国会で商法から独立した「保険法」が成立。審議委員に任命された共済協会役員の随行で部会の度に法務省へ。生協職員としては貴重な体験!2010年施行の保険法には「共済」という文言が!!



「生協山の会」メンバーと（左から4人目が私）